

# 明治グループの 水資源に関する取り組みについて

2022年2月22日

明治ホールディングス株式会社

# 明治グループ紹介



左：創業者 相馬半治

1916年 明治製菓の前身である『東京菓子株式会社』創立  
2016年 創業100周年を迎える

～創業の精神～

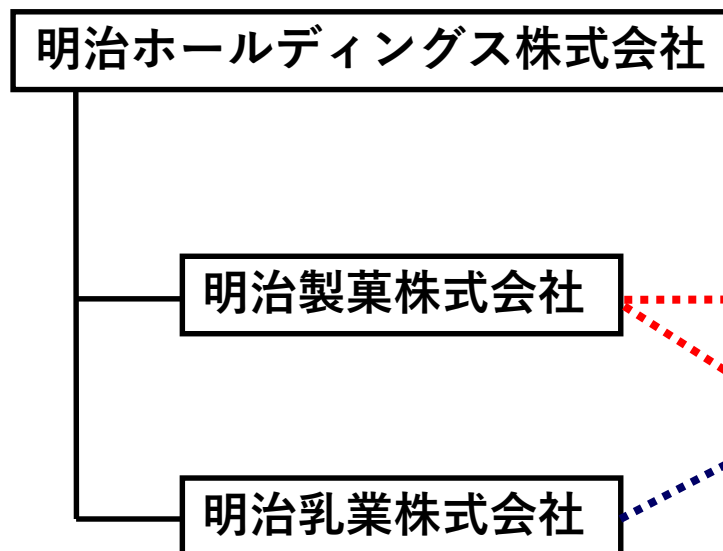
**質実剛健・至誠奉仕・栄養報国**

食、薬、栄養を通して、人々の心身ともに  
健康な生活に貢献するための活動を行う

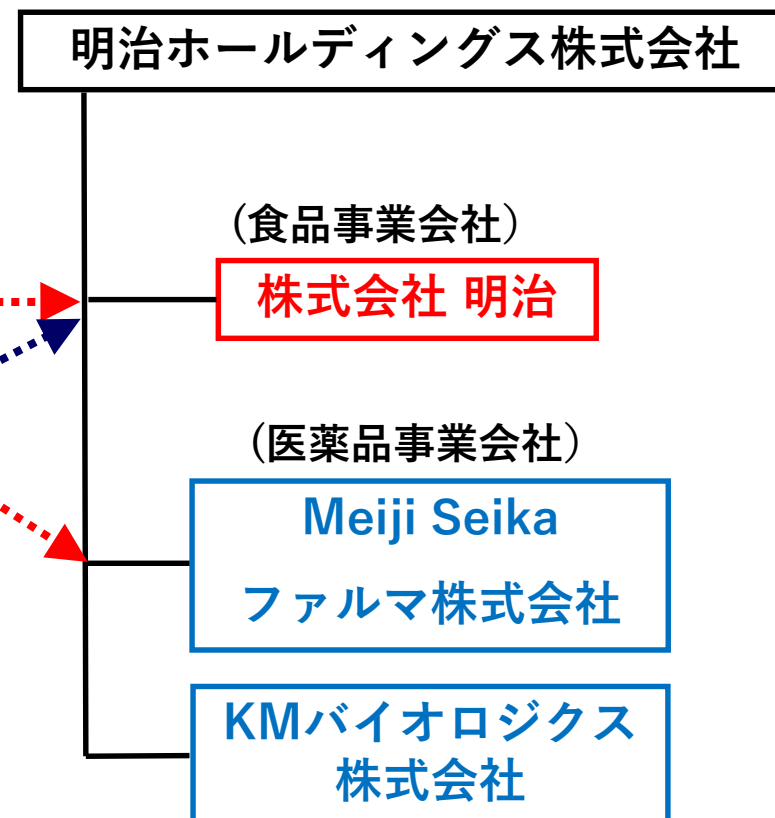


# 明治グループ紹介

旧体制（2011年3月末迄）



現体制（2022年2月時点）



◆2020年度 明治グループ業績  
売上高：1兆1917億円 営業利益：1060億円

(2018年7月から連結子会社化)

# 明治グループ紹介

赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代の皆さまに寄り添い、毎日の生活に欠かせない「乳製品」「菓子」「栄養」「薬品」などの幅広い分野の製品を通じて、「おいしさ・楽しさ」の世界を広げ、「健康・安心」への期待に応えてゆくことを使命として事業活動を営んでいます。

## 菓子



チョコレート



グミ



## 発酵デイリー



ヨーグルト



牛乳

## 医薬品・ワクチン



感染症薬

ジェネリック  
ワクチン  
医薬品

中枢神経系用薬

## 加工食品



アイスクリーム



チーズ



粉ミルク

## 栄養



流動食



スポーツ栄養

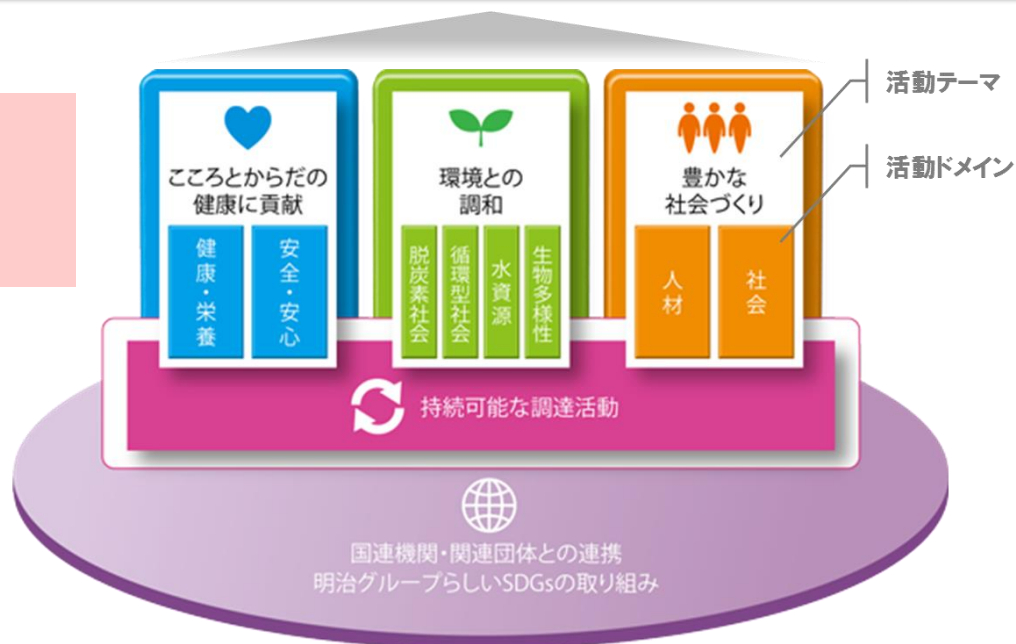
# 明治グループサステナビリティ活動の考え方

## 《ミッション》

明治グループのNEXT100にむけて、  
世界の人々が笑顔で健康な毎日を過ごせる  
未来社会をデザインする

明治グループは、食と健康のプロフェッショナルとして  
事業を通じた社会課題の解決に貢献し、  
人々が健康で安心して暮らせる「持続可能な社会の実現」を目指します

グループ  
サステナビリティ  
2026ビジョン



## コンセプト：

将来にわたって**自然との共生**を図るために、企業活動に伴う環境負荷の最小化

## 生態系との関係性

### 明治グループの事業

① **自然の恵み**が維持されていることが不可欠

② **自然資本**は重要な経営基盤



カカオ豆

生乳

など

### 将来に向けて

**自然の恵み**を享受するために、**水資源**に対する**取り組み**をはじめとした環境活動を推進し、生態系を保全し維持することが必要

## 長期環境ビジョン



### 4つの活動ドメイン



気候変動



水資源



資源循環



汚染防止

# 明治グループの事業にとっての水資源の必要性

## 1. 原材料としての水

製品に使用する原材料として  
良質な水の調達が不可欠



明治グループの商品例

## 2. 洗浄水としての水

製造設備を清潔に保つため  
の洗浄水が必要



製造設備

明治グループの事業には、良質で十分な水資源が必要

# 明治グループの水リスクに向けた取り組み（1）

## 自社拠点に対する取り組み

### ● 取り組みの優先順位づけ

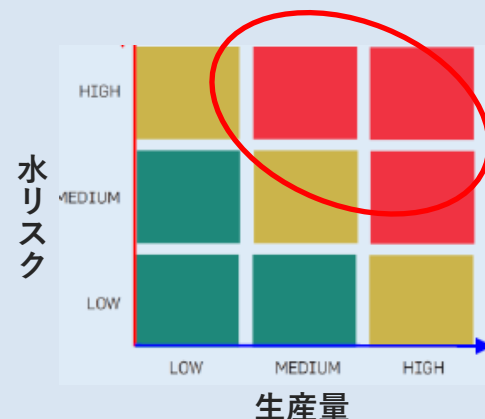
#### Aqueductを使用した評価

国内外の73拠点の洪水・濁水・水質リスクを評価

\* 日本・米国については、ハザードマップも活用

#### 各拠点の水リスクと生産高との二軸で評価

Aqueductで得られた評価結果と、拠点の生産高の二軸で優先順位を判断



### ● 対策の実施(例)

#### 医薬品事業会社の小田原工場における取り組み

- 洪水時を想定しての避難訓練を実施
- 敷地内の排水路の浸水レベルを常時モニタリング



洪水対策訓練（止水板設置）



# 明治グループの水リスクに向けた取り組み（2）

## サプライチェーンにおける取り組み

2021年度より、主要原材料生産地とサプライヤー様の拠点の水リスク評価を開始。

### 主要原材料生産地

生乳、カカオ豆、パーム油など、主要6品目から原産地の湧水、洪水、水質リスクをアキダクトとWater Risk Filterを活用して調査。



酪農地域



カカオ農園



パーム油農園

2022年度からギャップ分析を行った上で、対応策や代替調達地域の検討などを開始予定。

### サプライヤー様

20社のサプライヤー様に対して、水リスクの把握状況や、水資源に対する取り組みについてアンケート調査を実施。

アンケート結果に基づき、水リスクへの取り組みが必要なサプライヤー様と連携して対応策の検討を開始

# 長期環境ビジョンでの水資源に関する取り組み



## 2050年に向けて、3つの達成目標を設定

### ①水使用量削減

2050年までに  
原単位で水使用量



1/2

2050年までに、自社拠点での水使用量の売上高原単位を2017年度比で半減します

### ②ウォーターニュートラル

2050年までに  
製品原料で使用する水



2050年までに、製品原料として使用する水を100%還元します

### ③サプライチェーン

水リスクの解決への  
取り組み



自社拠点が立地する地域や、原料調達地域での水リスクの解決に取り組みます

# 水資源に関する中期目標

## 水使用量削減

### グローバルでの水使用量（原単位）を削減

2023年度目標：10%以上削減

2030年度目標：20%以上削減

\* 2017年度比



## 水使用の還元

### 製品原料として使用する水を100%還元

2023年度目標：27%以上

2030年度目標：45%以上



# 水使用量削減に向けた取り組み

## リデュース

### ①洗浄水の効率的な使用



愛知工場

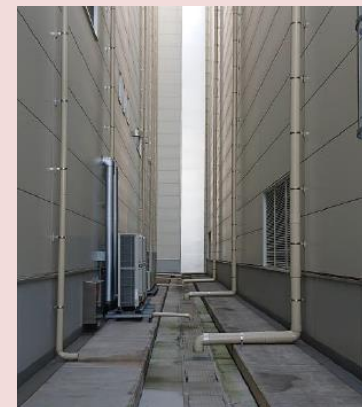
### ②節水機器の導入



節水ホース



節水ノズル

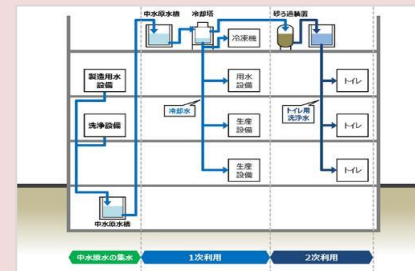


トイレへの雨水の活用

## 使用水の再利用



水循環型の冷却器



中水利用システム

## リユース

2020年度の水使用量は売上高原単位で**5.3%削減**（2017年度比）

# 明治グループの水源涵養の取り組み

## 2050年までに「ウォーターニュートラル」をめざす

医薬品事業会社のKMバイオロジクスは、「くまもと育水会」に加入し水源涵養の取り組みを実施

### 水田湛水事業

水田から転用された畑において、白川より取水した農業用水を湛水し、地下水を涵養



年間約**60万m<sup>3</sup>**  
の地下水を涵養(2021年度)

### ウォーターオフセット米の購入

地下水涵養地域で作られた米を従業員が購入し、水源涵養に貢献(1,612kg購入)



年間推計**3.2万m<sup>3</sup>**  
の地下水の涵養に貢献(2021年度)

製品に原料として使用する水の**約15%**を涵養

### 今後の取り組み

- ①国内工場の水源涵養につながる森林保全活動を検討。現在、国内全工場の水源について調査を実施。
- ②国内工場での雨水浸透による水源涵養量を調査中。また、新設工場から雨水浸透設備の導入予定。

健康にアイデアを

meiji